

# 肺炎予防

## ワクチン再接種に補助を

### まず定期接種の周知から



玉川 清史 議員

**問** 肺炎球菌予防接種は、初回のみ接種費の補助がある。接種は重症化予防に効果があり、安全性も

30年以上の実績がある。さらに医療費も半減している。全国では、65歳以上の接種対象者のうち30%台しか受けていないので接種率を上げるとともに、免疫効果が落ちた時、重症化予防のためには再接種が効果的である。再接種の費用に助成はできないか。

**保健センター所長** 定期接種の対象者は、5年度まで特例的に65歳以上100歳までの5歳刻みの節目年齢の人である。定期接種に補助があることの周知が不十分と考えられるので、まず対象者への周知で接種率を上げていきたい。

### 精神科入院に助成を

**問** 町の福祉医療は、県の助成対象を大幅に拡充して実施しており、障害者手帳の1級から3級及び自立支援医療受給者すべてに所得制限無しで通院・入院助成している。しかし、精神障がい者の精神科入院には町の助成がない。助成の対象にすべきではないか。

**福祉健康課長** 福祉医療費の対象拡大による方法に併せ、助成金や一時金といったことも視野に入れ、引き続き検討している。

# 孤独・孤立の対応は

## 相談体制の充実を図る

### 孤独・孤立

**問** 乳幼児の親の孤独・孤立への対応は。

**保健センター所長** 4月より、保健センターと子育て支援センターにおいて、子育て世代包括支援センター事業を開始し、保健師や家庭児童相談員などの専門職が相談に応じ、妊娠時から子育て期にわたる切れ目のない支援体制をより充実させた。今後も子育て支援センターと情報を共有し、必要に応じ支援会議を開催し、関係機関が連携し

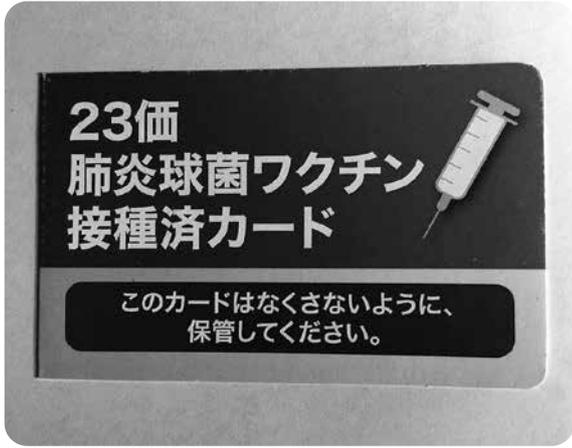
て支援するなど、保護者が誰かに相談できずに一人で悩んでいることのないよう取り組みを行う。



柅津 明子 議員

**問** 高齢者の孤独・孤立への対応は。

**福祉健康課長** 孤独・孤立の相談があった際、地域包括支援センターが窓口となり、町社会福祉協議会、医療機関、介護保険事業所等と連携して、適切な医療・介護・福祉のサービスにつなげることで、要介護状態の進行抑制に努め、孤独や孤立の防止を図っている。配食サービス、水道メーターを活用した見守りシステム、緊急通信システム「あんしん電話」など、様々な施策を通じて、高齢者の孤独・孤立の防止に努めている。



23価  
肺炎球菌ワクチン  
接種済カード

このカードはなくさないように、保管してください。



子育て世代包括支援センター事業開始